

跡見学園女子大学

文学部 現代文化表現学科

推奨作品リスト

— 2026 —

It is through art, and through art only,
that we can realise our perfection.



(1)

1-1 ; 政岡憲三監督『くもとちゅうりっぷ』(1943) DVD,Blu-ray, YouTube などで見られます。

「日本アニメーションの父」と呼ばれる人物が戦前に作った、当時のディズニーアニメにも匹敵するクオリティを持つ美しい傑作アニメです。

1-2 ; ユーリ・ノルシュテイン監督『話の話 (Tale of Tales)』(1979) DVD,Blu-ray などで見られます。

ロシアの世界的なアニメーション作家の代表作で、20 世紀アニメーションの最高傑作の一つ。独特の世界をぜひ体験してほしいです。

1-3 ; 庵野秀明監督『新世紀エヴァンゲリオン』(1995-1996) DVD,Blu-ray、Netflix などで見られます。

日本アニメ史に残る超有名作のみならず、90 年代以降、様々なカルチャーに影響を与え続ける名作。新作制作も発表された今、「現代文化表現」を知るなら絶対に一度は見るべき！

1-4 ; 津堅信之『新版 アニメーション学入門』(平凡社) 電子書籍あり

大学で学ぶ学問的なアニメーション研究について一番コンパクトかつ体系的にまとまった入門書です。これ1冊読めば、アニメ研究のポイントが押さえられます。

1-5 ; 土居伸彰『21 世紀のアニメーションがわかる本』(フィルムアート社) 電子書籍あり

タイトルの通り、21 世紀のアニメーション表現の変化を、幅広いジャンルのアニメーション作品を通じて独自の視点で解き明かす本。

1-6 ; 石田美紀『アニメと声優のメディア史』(青弓社) 電子書籍あり

「声優」は日本独特のアニメ文化を構成する重要な存在ですが、そのユニークな歴史を描いた本。比較的薄めの本なので、頑張れば1年生でも読めるはずです。

(2)

2-1 ; 『東京都庭園美術館の建築&インテリア』(東京都目黒区)

アール・デコ様式の日本での事例。様式研究やデザイン史の視点で現地を観察・体感してほしい。

2-2 ; 『大谷石地下採掘場跡の空間+鹿沼のまち』(栃木県鹿沼市)

採掘後の空間と採掘された石の生活利用の事例。人々の生活・文化の視点で現地を観察・体

感じてほしい。

2-3：『太田市美術館図書館の建物』（群馬県太田市）

建設計画時から関わる人々の表現といえる事例。使用も含めた現代表現という視点で現地を観察・体感してほしい。

2-4：『分身ロボットカフェ DAWN ver.β』（東京都中央区）

多様な人々が就労するカフェ。カフェは顧客や就労者にとっても日常空間であるが、一部の就労者にとっては仮想空間にあたるのか。私たちの新たな文化として体感してほしい。

(3)

3-1：岡崎京子『ヘルタースケルター』（祥伝社）

容姿の美、承認欲求、自己の価値とはなにか。跡見出身のマンガ家・岡崎京子はショッキングな中にも救いのある作品を描く作家。在学中にぜひ、本学所蔵の単行本を読破してほしい。学術書、評論、ムック本、展覧会図録もあわせてどうぞ。

3-2：大和和紀『はいからさんが通る』（講談社／複数バージョンの単行本あり）

大正時代、「跡無女学館」に通う女学生の花村紅緒。家族や仕事、戦争と震災……どんな困難が起きてても恋と友情の力で駆け抜ける「はいからさん」の生き様に勇気づけられる。

3-3：よしながふみ『大奥』（白泉社）

ある奇病の大流行で人口比率が激変した結果、男女の社会的役割が転換した江戸時代。権力体制と価値観のズレの中で生き抜く人びとの姿が描かれた、壮大なジェンダーSF物語。

3-4：京都国際マンガミュージアム・京都精華大学国際マンガ研究センター監修・編集『マンガって何？ マンガでわかるマンガの疑問』（青玄舎）

「マンガ」ならではのメディアの特徴、歴史、文化的な位置づけが「学習マンガ」として理解できる、「マンガ」の意義を存分に活かした一冊。

3-5：おーちようこ『コミックマーケットへようこそ 準備するから準備会』（星海社新書）

50年以上の歴史を築いた、日本最大の同人イベント「コミックマーケット」。その組織運営を、筆者のスタッフ経験と各部署担当者のインタビューなどから紐解く。場を作る側に興味がある人だけでなく、同人誌やグッズを買う人・参加する人にもぜひ読んでほしい。

(4)

4-1 ; ロバート・ゼメキス監督『フォレスト・ガンプ/一期一会』

CGの導入によってヒューマンドラマの表現の幅を広げた作品です。アメリカの近代史を垣間見ることもできます。

4-2 ; 押井守監督『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』

海外からも高い評価を得たアニメーション作品。人間の脳とネットが直接繋がる近未来を描いています。

4-3 ; ウォシャウスキー兄弟監督『マトリックス』

革新的な映像表現が話題となった作品です。CGだけでなくワイヤーアクションやバレットタイムなども使われています。

4-4 ; ビートルズ『The Beatles 1962-1966』

J-POPのみならず様々な音楽ジャンルに大きな影響を与えたビートルズのベストアルバムです。1967-1970と併せて必聴。

(5)

お勧めの美術館

5-1 ; 東京都現代美術館 最寄駅: 清澄白河 (月休)

現代美術の流れを展望できるコレクション展示や大規模な国際展をはじめとする特色ある企画展示など、絵画、彫刻、ファッション、建築、デザイン等幅広く現代美術に関する展覧会を開催している。美術図書室が利用できる。

5-2 ; ワタリウム美術館 最寄駅: 外苑前 (月休)

建物はスイスの建築家マリオ・ボッタによる設計。ギャラリー・ワタリを前身とするプライベートギャラリーであり、アンディー・ウォーホル、キース・ヘリングやドナルド・ジャッド、ソル・ルウィットなどのコレクションを基盤としつつ日本の若い現代アーティストたちの紹介に力を入れている。

5-3 ; 水戸芸術館 最寄駅: 水戸

建物は磯崎新による設計。コンサートホールATM、ACM劇場、現代美術ギャラリーの3つの独立した施設があり、音楽、演劇、美術の3部門がそれぞれに、自主企画による多彩で魅力あふれる事業を展開している。地域文化活動の拠点でもある。現代アートギャラリーは月曜が休館日。

その他、アーティゾン美術館（八重洲・月休）、東京国立近代美術館（竹橋・月休）、埼玉県立近代美術館（北浦和・月休）、国立国際美術館（大阪・月休）など。また、小山登美夫ギャラリー（八重洲）、moriyu ギャラリー（京都・三条）などでは作家をサポートしつつ展示・販売を手がけている。

お勧めの本

5-4；アリストテレス『詩学』 翻訳多数

逆転や認知という悲劇の筋立てと始め、中、終わりという三幕構成に代表される詩の創作法として、古代ギリシアに書かれた詩論であり、それ以降、現代までの劇作法に大きな影響を与えました。

5-5；ヴァルター・ベンヤミン『写真小史』 翻訳多数

カメラという機械によって生み出された写真というメディアには、人間ではなくカメラが捉えた世界が映し出されています。19世紀における初期から20世紀初頭までの写真が扱われ、イメージの変質について論じられています。

5-6；原田平作・神林恒道編『芸術の楽しみ やさしい芸術学』 晃洋書房、2002年

「見ること」、「聞くこと」、「語ること」の「楽しみ」をより深めるための、そしてそうした「芸術」を「味わい」よりいっそう好きになってもらうための「楽しみ方のレシピ」が満載です。

(6)

今ではなかなか手に入らない、見つけたとしても高額でとても買えない、でも大学の図書館にあって、ただで見られちゃう写真集を3つご紹介します。図書館はこういう「自分じゃ買えない」貴重な資料がたくさんあるので、ぜひ利用してください。

自宅にいながら YouTube やサブスクで観られる映画3作も併せてご紹介。

6-1；『Avedon Fashion 1944-2000』

ファッション・フォトグラファー、リチャード・アヴェドンの集大成ともいえる写真集。

『VOGUE』『Harper's BAZAAR』などに掲載された作品を厳選収録。新座図書館の特大本コーナーにある。

6-2；『Images of women』

茗荷谷の図書館からご紹介したいのは、ピーター・リンドバーグの写真集。世界のスーパーモデルを捉えた代表作、女優やアーティストのポートレートなどを収録したリンドバーグ作品集の決定版。茗荷谷図書館の保存書庫にある。

6-3 ; 『Rei Kawakubo : Comme des Garçons : art of the in-between』

2017 年にメトロポリタン美術館にて開催された展覧会「Rei Kawakubo/Comme des Garçons: Art of the In-Between」に併せて刊行された図録。コム デ ギャルソンの 40 年に及ぶ作品を豊富な写真やスケッチとともに紹介。新座図書館の特大本コーナーにある。

6-4 ; YouTube 『コム デ ギャルソン川久保玲 2020 貴重なインタビュー』

なぜ、川久保玲が世界一のファッションデザイナーと評価されるのか。その理由の一部が理解できる「まさに貴重な」映像。

6-5 ; 映画『ココ・アヴァン・シャネル』(2009)

同名小説を原作とした、ココ・シャネルの伝記映画。ファッションの変遷、女性の地位とファッションの関係も描かれている。Amazon プライム・ビデオ他で観られる。

6-6 ; 映画『ファッションが教えてくれること』(2009)

『プラダを着た悪魔』のモデルでもあるアメリカのファッション誌『VOGUE』の編集長アナ・ウインターのドキュメンタリー映画。ファッション界とアメリカの『VOGUE』との関係や雑誌がどのように作られるかも学べる。Apple TV 他で観られる。

(7)

7-1; *Louis Armstrong, Louis Armstrong Hot Five and Sevens (1925-1930)*

(邦タイトル、ルイ・アームストロング『ホットファイヴ&セヴンズ』)

「ジス・イズ・ジャズ」の名札が似合う音楽。CD だと 4 枚組。ストリーミング、MP3 も有り。YouTube で 1 曲なら、“West End Blues”。

7-2; *Miles Davis, Kind of Blue (1959)*

(邦タイトル、マイルス・デイヴィス『カインド・オブ・ブルー』)

日本も含めて、世界中で最も長く売れ続けているジャズのアルバムの 1 つ。CD、ストリーミング、MP3、レコード盤、YouTube、すべて有り。

7-3; *Stevie Wonder, Songs in the Key of Life (1976)*

(邦タイトル、スティーヴィー・ワンダー『キー・オブ・ライフ』)

有名な曲・アルバムのとて多いミュージシャンですが、1 つのアルバムを選んで聴いてみる機会を持つのも悪くないです。CD、ストリーミング、MP3、レコード盤、YouTube、すべて有り。

7-4; バズ・ラーマン監督『エルヴィス』(2022)

「エルヴィスは二十世紀最大の文化的な影響力だ。ピカソ? 違う。エルヴィスは全てにビートを与えた。そして、全てが変わったのだよ」というのは、レナード・バーンスタインの有名な言葉です。

7-5; チャーリー・エーハーン監督『ワイルド・スタイル』(1983)

ヒップホップ・カルチャーが、ここから、こうやって始まったということがよくわかります。現在にいたるヒップホップのスターたちが影響を受けたヒップホップ黎明期を描いた作品。

7-6; Bob Marley & The Wailers, Legend (1984)

(邦タイトル、ボブ・マーリー&ザ・ウェイラーズ『レジェンド』)

ヒップホップやパンク・ロックといった 1970 年代以降のポピュラーミュージックは、レゲエに代表されるジャマイカ音楽を抜きには成り立ちません。没後 40 年以上を経て、なお世界中のミュージシャンに尊敬され続け、影響を与え続けるボブ・マーリーのベスト盤です。

(8)

8-1 ; EPAD 舞台芸術映像視聴トライアル (跡見学園女子大学茗荷谷図書館)

茗荷谷キャンパスの図書館では 100 本以上の舞台作品映像が鑑賞できる専用端末を、期間限定 (今年度いっぱい) の予定) で設置しています。2.5 次元作品から現代演劇まで、日本の舞台芸術シーンを彩る名作もありますので、是非一度立ち寄ってみてください。

8-2 ; 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

日本で唯一の演劇専門博物館です。常設展、企画展示だけでなく、図書資料、紙資料、博物、映像、音源など多種多様な貴重資料を所蔵しています。開館時間にご注意ください。

(9)

9-1 ; 「ヌーヴェル・ヴァーグ (フランス、Nouvelle Vague)」、「アメリカン・ニューシネマ (American New Wave)」の映画作品 (ジャン＝リュック・ゴダール監督『気狂いピエロ』1965、デニス・ホッパー監督『イージー・ライダー』1969 など)。

1950 年代から 1970 年代にかけてフランス、アメリカで製作された反体制的、対抗文化的映画作品群。

9-2 ; アンビエント・ミュージック (環境音楽、ambient music) 関連の音楽作品 (ブライアン・イーノ『Ambient 1: Music for Airports』1978、エリック・サティ『ジムノペディ』1888 など)。

1960年代から1970年代にかけて誕生し確立された、既存の音楽とは一線を画す音楽ジャンル。

9-3; NHK『世界サブカルチャー史 欲望の系譜』(シーズン1. アメリカ編、シーズン2. ヨーロッパ編、シーズン3. 日本編、シーズン4. 21世紀の地政学 アイドル編・ヒップホップ・ゲーム編・アニメーション編など)

アメリカ合衆国、ヨーロッパ、日本における、戦後のサブカルチャー、ポピュラーカルチャーの全体像が見えてくる。現在もNHKのBS、Eテレなどで放映中。一部、書籍化もされています。

9-4; 「横浜美術館」、「(市立)宇都宮美術館」の現代アートに関連する収蔵作品(アンディ・ウォーホル『キャンベル・スープII』1969 横浜、ルネ・マグリット『大家族』1963 宇都宮、など)。

欧米の現代アート/コンテンポラリー・アート関連の作品を比較的多く収蔵している美術館(展示の有無、要確認)。ポンピドー・センター(パリ)、テート・モダン(ロンドン)、マグリット美術館(ブリュッセル)、ピナコテーク・デア・モデルネ(ミュンヘン)などへもどうぞ!